

〈シリーズ〉こころとからだの健康を支える伝統文化

こころの健康を考える落語会

第1回

日時 2026年5月31日(日)

14:00開演(開場13:30)

内容

〈第一部〉14:00～

◎主催者あいさつ

大阪体育大学 社会貢献センター教授

辰巳 佳寿恵

◎落語一席

「寝床」

桂 福楽

休憩 15:00～15:10

〈第二部〉15:10～

◎フリートーク

コーディネーター
管理職ユニオン・関西

書記次長 松岡 大友

医療法人光愛会 ひかりクリニック

院長 有本 進 先生

- ・パワハラのいろいろ
- ・パワハラに関わるいろいろな人々
- ・パワハラへのいろいろな対応

多くの労働者を苦しめる「パワハラ」とは
いったい何でしょうか？ 正解のない問いか
もしれませんが、ともに考え語りましょう。

16:00頃終了予定



「寝床」江戸時代に大流行した
浄瑠璃に凝った店の主人が、
自分の芸を借家人や奉公人に
聞かせようとしますが、そのひ
どさに誰も聞こうとしません。
怒った旦那は無茶なことを言
い出して、一同大騒ぎ。その時
番頭が考えた「名案」は…。
上司がカラオケで下手な歌を
部下に無理やり聞かせる、現代
のパワハラのような落語です。

参加費

一般 2,500円

管理職ユニオン・関西

組合員 1,800円

*未就学児の同伴はご遠慮ください。*会場に来場者用の駐車場はありません。

会場

浪商学園大阪体育大学アネックス

大阪市北区天満3丁目10-16

JR 東西線「大阪天満宮駅」⑧出口から徒歩約5分

お申し込み：メール予約

[宛先] matsuoka11189@gmail.com

管理職ユニオン・関西 松岡まで

件名に「こころの落語会1予約」、本文に氏名・参加人数・連絡先を
入力の上送信してください。受付完了メールを返信します。

(自動返信ではありませんので返信に時間がかかる場合があります。)



主催：大阪体育大学 辰巳佳寿恵研究室／管理職ユニオン・関西

主催者より

私と桂福楽さんとのご縁は、堺のぞみの会(精神障害者家族会)主催の「心の病のお話と落語で楽しいひとときを」に参加させていただいたことから始まりました。福楽さんは双極性障害のご経験を率直にお話くださり、私は共感や発見をしながらお聞きしたのですが、その後の落語のパワーにも本当に圧倒されました。発症前や闘病中の福楽さんを私は存じ上げないのですが、心の病のご経験を経て、さらにパワーアップされたであろうことを確信いたしました。そして、福楽さんを通じて、どのような辛い経験も決して人生に無駄ではないと信じる気持ち、より一層強くなりました。本日の落語会は、落語という芸能を通して、心の病を少し客観的に、少しちがった側面からみるという、少し変わった、少し深化した実験的取り組みです。楽しんでいただけますと幸いです。(大阪体育大学 辰巳佳寿恵)

桂 福楽より



落語についてー

落語は江戸時代に生まれました。古臭いイメージがあるかもしれませんが、時代に合わせて変化をしてきた芸能です。お客様に笑っていただくことをモットーにしていますので、お笑い番組を見るようなつもりで、気軽にお楽しみください。

精神疾患の発端と経過についてー

2000年に不眠症となり、生まれて初めて精神科を訪れ受診しました。その後クリニックで双極性障害(躁鬱病)と診断。2009年に右足を骨折して精神状態が悪化。2年4カ月の休養をして、2011年に復帰しました。今まで6回の入院をしましたけれど、2024年の秋頃に寛解。20年以上に渡った闘病生活から色々なことを学び、この経験が皆様のお役に立てればと思っています。

【プロフィール】1959年8月2日東大阪市生まれ。小学生の頃から落語に興味を持ち、中学校に入り友達と落語研究会を立ち上げる。1978年大阪芸術大学文芸学科に入学、1979年12月、2回生の時に四代目桂福団治に入門して小福となる。1999年、大阪文化祭賞奨励賞を受賞。2004年5月、桂福楽を襲名。2006年1月にミニ独演会「福楽の底力」をスタート。公益社団法人上方落語協会会員、関西演芸協会理事、松竹芸能所属

桂福楽ホームページ→



主催者の活動紹介

辰巳 佳寿恵

大阪体育大学社会貢献センター 教授
博士(心身障害学)

視覚障がい者、特に中途視覚障害者や在職障害者のリハビリテーションや労働問題に関する研究に携わってきました。私自身が複雑性PTSDの診断を受けて、精神科の治療を受けるようになってから、心の病気に関わる問題についても、自分自身のことを通して考えるようになりました。現在は、もともとの研究分野であった視覚障害と、自分自身の経験も含めて実践研究として行う精神障害(心の病)、そしてリハビリテーション・文化・労働について研究しています。また私は、視覚障がい者の豊かな暮らしを実現する研究会(ゆたくら)を主宰しております。研究開発品としてYUTAKURA BP、BP+を株式会社Halleluiaから発売しております。難しい研究ではなく、プロダクツの開発や文化活動を通して、参加型「創作研究」を展開しようと頑張っております。趣味は日本舞踊と、ドラマ・映画鑑賞です。

見えなくても、使いやすい。
使いやすいから、みんなに使ってほしい。

2024年、視覚障がいのある方々の声から生まれた初代YUTAKURA BPは、本家で機能性を追求した、唯一無二のデザイン。触れるだけで「何があるか」がわかる設計で、視覚障がいのあるなしに関わらず、ご好評いただいています。そして2026年、「大きなサイズも欲しい」「カラーバリエーションが欲しい」という初代ユーザーのご要望にお応えし、YUTAKURA BP+が誕生！サイズを大きくしたからこそ、身体への負担軽減を実現し、5色展開をご用意。



ブラウン ブラウンのやさしいやさしい
ブラック 黒の深さを
ネイビー 紺の深さを
グレー 朝もやに包まれた
グリーン 緑のさわやかな

管理職ユニオン・関西(以下ユニオン)は 働き先に関係なく個人でも加入できる 企業外の労働組合です。

結成は、企業内の労働組合に入れなかった「管理職」のリストラが吹き荒れた1990年代でした。「管理職」の名前がついていますが、管理職でない方も含めた、働く者なら誰でもひとりでも加入できる労働組合です。

組合員の労働問題の相談・支援にあたるほか、外部の方の相談にも広く応じています。深刻な問題では、加入して頂いたうえで、解決策と一緒に考え支援を行っていきます。ただユニオンは、弁護士とは違い、あなたに代わり労働問題の交渉を引き受けるところではありません。労使対等の団体交渉によって、解決をめざします。

問題に取り組むのは、あくまであなた自身です。そんなあなたを力強く支援する、いっしょに取り組むのがユニオンにできることです。労働問題は、労働者自身が考え・行動することによってのみ、労働三権(団結権、団体交渉権、団体行動権)を使いこなし、真に解決できるとユニオンは考えています。あなたに、自分の問題は自分で立ち向う、という気持ちがあれば、ユニオンは協力を惜しみません。

管理職ユニオン書記次長の松岡大友です。私は営業職として現場で働きながら組合活動にも携わっています。これまで私自身もメンタルの不調を経験したことがありその経験が現在の活動の原点の一つとなっています。

管理職ユニオンでは、ハラスメントをはじめとした労働トラブルの相談を多く受けており、その中にメンタル不調を抱えた方も少なくありません。こうした現状を踏まえ、心の健康は非常に重要なテーマだと考えておりユニオンとしても積極的に取り組んでいきたいと思っています。

〈イベントに関するご質問は〉
辰巳佳寿恵研究室
TEL 072-453-8922
メール tatsumi@ouhs.ac.jp

管理職ユニオン・関西 事務所
〒530-0043 大阪市北区天満1丁目6番8号 六甲天満ビル801号
TEL 06-6881-0782 FAX 06-6881-0782
ホームページ <http://www.mu-kansai.or.jp>